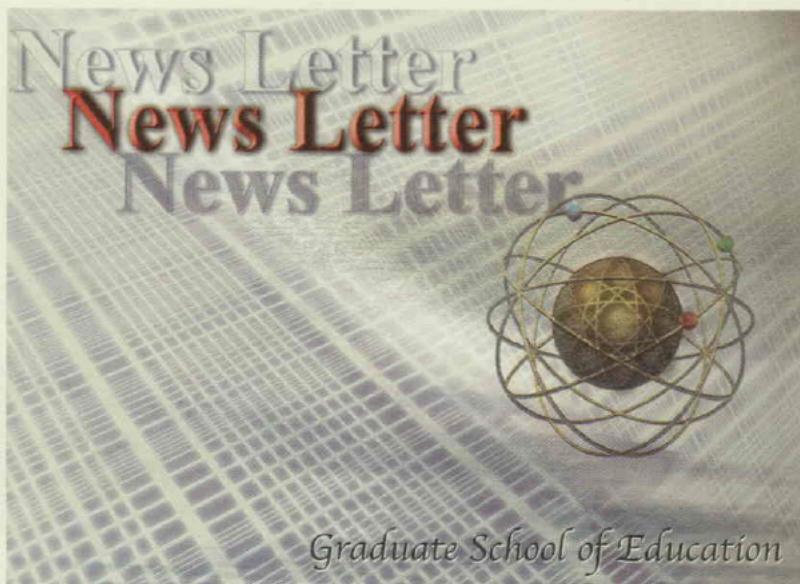


# 京都大学 大学院教育学研究科 / 教育学部

No. 14



2007.6

## (目次)

### ● 卷頭言

- 新しいプロジェクトに期待する ..... 研究科長 学部長 川崎良孝 ..... 2

### ● 研究ノート

- 教員から ..... 生涯教育学講座 准教授 佐藤卓巳 ..... 3

- 院生から ..... 臨床教育学講座 博士後期課程 3 年 井谷信彦 ..... 3

- 院生から ..... 臨床実践指導学講座 博士後期課程 1 年 笹倉尚子 ..... 4

### ● 社会人院生から ..... 教育科学専攻 専修コース M1 岡田薪子 ..... 4

### ● 学部生から ..... 現代教育基礎学系 4 回生 柳原千絵 ..... 5

- ..... 教育心理学系 4 回生 柴田恵未 ..... 5

- ..... 相関教育システム論系 4 回生 三本仁美 ..... 5

### ● 臨床教育実践研究センターから

- ..... 臨床教育実践研究センター長 教授 伊藤良子 ..... 6

### ● 事務室から

- お知らせ等諸々 ..... 専門職員(総務掛長) 新堂利博 ..... 6

### ● 図書室から

- 利用者アンケート集計概要 ..... 7

### ● 教育実践コラボレーション・センターから

- ..... コラボレーション・センター関連 助教 石井英真 ..... 8

### ● 留学生から ..... 比較教育政策学講座 博士後期課程 1 年 李 霞 ..... 8

### ● 総長賞を受賞して ..... 自然科学研究機構生理学研究所 PD 研究員 米田英嗣 ..... 9 (H19.3 博士後期課程修了 教育認知心理学講座)

### ● 諸記録 ..... 9~11

- ①入試結果 ②学位授与件数 ③教育職員免許状取得状況 ④人事異動 ⑤招へい外国人研究者等の記録  
⑥寄附金受入 ⑦受託研究受入 ⑧科学研究費補助金 ⑨ハラスメント防止に関する研修会

### ● 諸報

- 新任教員、事務員紹介 ..... 12

# 巻頭言

研究科長 学部長 川崎良孝

## ■ 新しいプロジェクトに期待する

教育学研究科のプログラム「理論・実践融合型による教育学の研究者養成」は平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブのプロジェクトに採択され、17・18年度と2年にわたってこの事業に取り組みました。研究科として教員と院生が一体となって教育プログラムに取り組んだのははじめてで、教員と院生の双方に大いに刺激になり、活気に満ちた事業でした。

イニシアティブの成果としては、例えば以下のようなことがあります。

- 院生主体の研究授業「研究開発コロキアム」を時間割に組み込み、計21のコロキアムが講座横断的な構成でもって活動しました。最終的に21の個別報告書がだされ、いずれも高質のもので、博士レベルでの教育カリキュラムの在り方に1つのモデルを示すことができました。
- 国際関係では北京師範大学、ランカスター大学、中国中央教育科学研究所と学術協定を結び、シェフィールド大学、ベルリン自由大学などとも持続的な学術交流ができる基礎を構築できました。また院生主体のシンポジウムを国内外で実施できたのも大きな成果です。
- また複数の教員と院生との自主的な研究会を4つ立ち上げ、理論と実践をすりあわせる研究教育活動を行いました。例えば京都府南部の南山城村（京都府で唯一の村）の野殿・童仙房地区を教育空間創造のためのフィールドと設定し、研究科として地域活性化と学習コミュニティの創造に継続的に乗り出ことになりました。ここでは院生が地域と大学を結ぶ役割、また自分の研究を見直す契機になりました。

本事業によって、研究能力のみならず、国際的に活躍でき、かつリーダーシップをそなえた若手研究者の育成の土台を据えることができたと思っています。

こうした取り組みは18年度で終了した（詳しくは以下を参照『「理論・実践融合型による教育学の研究者養成」研究成果報告書』19年3月、329p）わけですが、研究科としてはさらに展開していきたいと願っています。

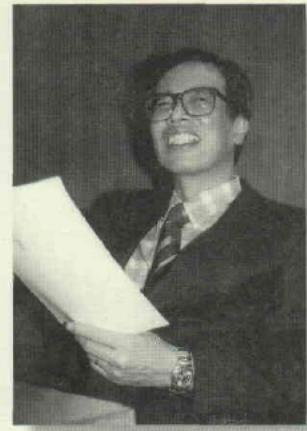
例えば19年度から5年間にわたって、新しいプロジェクト「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究推進事業」が開始されます。このプロジェクトは、子どもの生命性と有能性を育て、教育の諸問題を解決するために、国内外の教育・研究機関と連携し

て、研究と実践の相互循環型教育、異分野融合型教育プログラムの研究開発を行うものです。そのプロセスにおいて大学院生がフィールドに積極的に参加し、高度の研究能力と問題解決能力を持つ人材を育成することを目的にしています。

本プロジェクトでは教育実践コラボレーション・センターをヴァーチャルなセンターとして設置し、「学校教育改善ユニット」、「新しい教育関係ユニット」、「教育空間創造ユニット」という3つの教育研究組織を置きました。例えば「学校教育改善ユニット」では、教育現場において学力評価を活かした授業改善の研究開発、および全国スクールリーダー育成研修（E-FORUM）の実施を行います。「新しい教育関係ユニット」では、不登校児を対象とするケースカンファレンスなど、「教育空間創造ユニット」では上述の野殿・童仙房地区での教育空間創造事業を展開します。このセンターは現在の日本の教育状況を受け止め、そうした状況を理論的・実践的に変革していくことを目的にしています。

一方、海外とのかかわりでは、心理系は海外の複数の大学から教員・院生を招き、本学でシンポジウムの開催を計画していますし、教育系は北京師範大学から教員・院生を招いて、第2回の日中教育系学生国際シンポジウムの開催を具体的に計画しています。また中国中央教育科学研究所とは日中共同教育研究センターを設置し、日中の小学生の国際学力比較研究を行うことになっています。また外国から非常勤講師として先生がこられ、「国際教育研究フロンティア」という科目を集中講義で担当されます。さらに研究科の教員が外国の大学で非常勤講師として講義されます。

このようにカリキュラムの充実、国際化の進展、学生の研究条件の向上など、学生の成長に向けて、いっそうの努力をしたいと思っています。学生諸君の積極的な参加と、関係各位のご指導をあらためてお願ひします。



# 研究ノート

## 教員から

生涯教育学講座 准教授

佐藤卓巳



### テレビは「教養のセーフティネット」たれ!

「発掘!あるある大事典Ⅱ」のデータ捏造事件は、関西テレビ社長辞任でようやく幕をとじた。『テレビ的教養』(仮題)を執筆中の私にも看過できない出来事だった。

だが、大学構内で私の耳に聞こえてくる反応は冷めた評言が多い。「メディア・リテラシーの欠如でしょうね」、「相関関係と因果関係のちがいもわからない人たちが作っている番組ですから」。確かに、多少とも科学的思考の訓練を受けた人間なら、あのような情報番組の怪しさは常識である。そもそも情報番組とは何だろうか。

放送法で番組は教育番組・教養番組・娯楽番組・報道番組の4つに分類されている。つまり、法律上は情報番組というジャンルは存在しない。一般に情報番組とは4要素の複合的番組とされていている。各局が毎年総務省に提出している放送番組比率によれば、2003年度後期の「民放」平均は、教養番組25.3%、教育番組12.6%、報道番組19.9%、娯楽番組36.9%、広告4.1%、その他1.2%となっている。この比率は近年ほとんど変化していないのだが、視聴者の常識からみて民放で娯楽番組より教養・教育番

組が1%多く放送されているという「事実」を信じることは難しい。

こうした数字合わせが発生

するのは、一般放送局の免許条件として、教育番組10%以上、教養番組20%以上で常時編成することが義務付けられているためである。この基準をクリアするために、勧善懲惡の時代劇に「德育」、輸入ドラマに「国際的教養」といった要素を読み込む慣行が続いてきた。こうした実態とかけなれた建前も、制作現場にモラル・ハザードを引き起こした一因だろう。

これを機会に情報番組が教育・教養番組であることを制作者は肝に銘じるべきだろう。私は朝日新聞社紙面審議会と読売新聞社読書委員会の委員をつとめているが、もはや新聞が国民全体に行き渡るメディアでないことを痛感している。しかし、新聞を読まない情報弱者でもテレビなら見ているのである。格差社会の中で教育再生を叫ぶのなら、情報番組を本当の教育・教養番組にすることが最重要の課題ではないだろうか。(了)

## 院生から



臨床教育学講座 博士後期課程3年

井谷信彦

早いもので、大学院生として私の研究生活も今年度で5年目になりました。学部から数えるなら、もう8年間も京都大学に在籍している計算になります。振り返ってみると、これまで私の研究は、いつも「受苦的な経験における人間の変容」について考えることを中心的なテーマとしていました。

人間関係におけるトラブルや、病気や怪我による障害、あるいは親しい人の死別など、生きることのうちに私たちは、心身を苛むさまざまな出来事に否応なしに直面させられることがあります。現代の教育学はしかし、そうした受苦的な経験は私たちの人生にとってマイナスの結果ばかりをもたらすものではないと考えてきました。例えばドイツの教育学者ボルノウは、むしろそうした危機を通してこそ私たちは道徳的に成長することができるのだと述べています。生命の危険さえ伴う過酷な体験はときに、私たちの人生をより豊かな可能性に満ちたものへと変革する契機ともなりう

るのだと云うのです。

なるほど確かに、幾多の「困難」を経て立派に「成長」した人物を、私たちは容易に思い描くことができます。書店に並んだ「闘病記」や「介護日誌」を紐解くなら、そこには「苦しみ」を通した「成長」についての物語を見出すこともできるでしょう。けれども、生老病死にまつわる受苦的な経験を、すぐさま「成長」や「発達」の契機へと換算してしまうことは、その過酷な体験がもっている本来の可能性を見失わせてしまうのではないかでしょうか。むしろそのように「成長」や「発達」の契機へと安易に換算することを許さないところに、受苦の受苦たる由縁があるのでないでしょうか。学部時代から続くそのような問題意識のうえに、現在の私の研究は成り立っています。

まだまだ「研究者」と名乗るのも恥ずかしい新米ですが、周囲の方々の励ましに支えていただきながら、これからも研鑽を重ねていきたいと思っています。

## C院 生 か ら

臨床実践指導学講座 博士後期課程1年 笹 倉 尚 子

大学院生活3年目、博士後期課程に至り、ようやく研究と実践が繋がり始めたような気がしています。我々は日々の臨床実践を行いつつ、一方では心理臨床そのものについて研究しているわけですが、修士課程の2年間はそれらの両立を必死になつてやつていました。そして現在は、臨床実践に文字通り心血を注ぎ、そうやって心血を注いでいる自らを含めて対象化し、研究に繋げるという作業が、自分のなかでひとつの流れになってきていると感じています。

私の現在の研究テーマは、「心理臨床における話し言葉の探求」です。心理臨床という「客観的にはただ話しているだけの行為」のなかで、クライエントさんは、そして私自身はいったい何をしているのか?という素朴な、しかし重要な問い合わせ中心になっています。心理臨床家はみな、この問い合わせを抱え、「ただ話しているだけの行為」に独自の意味や専門性を見いだす必要があるのではないかと私は考えています。臨床場面で用いられる多くの言葉ー「なぜそう思うのですか」と理由を尋

ねる言葉、「あなたにとってそれは何なのですか」と意味を尋ねる言葉、あるいは理由や意味を求めない言葉もあるでしょう。

それらのひとつひとつについて詳細に理解し、記述していくことが、臨床場面で生じていることを知る助けになると考えています。私はその手がかりとして、物語の原型であり、実際に人間同士が対話をする特殊なコミュニケーションの場である演劇に着目しています。現代演劇における演技は、近代的な自我同一性的存在としての「わたし」を解体し、〈役〉という虚構との差異の関係から新たな主体である〈わたし〉を生成するという特色を持っています。私はこれを、いわゆる「演技は嘘」という固定観念から脱したものとして〈行為としての演技〉と定義し、話し言葉を考えるヒントとして研究しています。観劇が趣味の私にとって、学業と趣味もこうして繋がっています。



私は大学を卒業後、教育機関での事務職を経て、今春、大学院に入学しました。生徒・学部学生・職員と、様々な立場で教育機関に身を置き、そし

て今回、京都大学で「大学院生」として過ごすこととなり、これまでとは異なる緊張感に包まれながら毎日を過ごしています。

京都大学のキャンパスは想像以上に広く、また授業科目の選択などに、入学当初はとても戸惑っていましたが、先生方をはじめ、教育学研究科の多くの方々に助けられ、支えられながら、大学院での生活にようやく慣れてきたところです。

私が教育学に関心を持ったのは、学生から職員へと視点を変えて「教育」を再考してみたときに、自分がこれまで受けてきた教育にはどんな意味があったのだろう、現在行われている学校

## C社 会 人 院 生 か ら

教育科学専攻 専修コース M1

岡 田 薫 子

教育はどんな社会的役割を担っているのだろう、というふとした疑問を感じたことが、きっかけです。そしてこのような疑問に正面から向き合いたい、という気持ちがだんだんと大きくなり、大学院進学を決意するに至りました。今春、幸運にも京都大学で学ぶ機会に恵まれ、自分自身の体験をくぐりながらも、「教育」を相対化して捉えていくことができるよう、研究を進めていきたいと考えています。

大学院の授業では、多くの学問分野との関連のなかで最先端の教育事情について学ぶことができ、幅広い視点を持って論理的に考えることの重要性を日々実感しています。また家庭的な温かみのある院生室で、多くの方が真摯に研究に取り組んでいる姿を目にする、自然と自らの研究に対する意識も高まります。

今の自分に与えられた、この環境に感謝しながら、実りの多い2年間を過ごしたいと思っています。

# 学部生から



現代教育基礎学系  
4回生

## 柳原千絵

「時間というものは毎日同じ速さで流れるが、実際には年齢に比例して速く感じるようになる。」という言葉を、私が中学生の頃に先生がおっしゃっていました。そのころは、何気なく聞いていましたが、言葉の意味をしみじみと実感し始めた今日この頃です。私は去年の4月にこの京都大学教育学

部に編入してきましたが、あっという間に一年間が過ぎてしまいました。

この大学に入学して、以前通っていた大学とは大きく異なる点が2つありました。一つは、先生方の熱心さ。二つ目はとても幅広い人間関係です。他の大学とは違って、さまざまな年齢の、そして多様な経験を持った方達がこの京都大学で学んでいて、普段は接する事が出来ないいろんな人と接することが出来ました。

短い一年間ではありましたが、このような環境のおかげで以前通っていた大学とは違った、とても充実した、貴重な一年間を送ることができました。この恵まれた環境で自分が成長していく事に感謝しつつ、決意を新たに今年も頑張っていこうと思います。



教育心理学系  
4回生

## 柴田恵未

近年、世間でもとみに心理学への関心が高まっていますが、実際学んでみると、やはり簡単なものではないなど痛感しています。扱っている人の心というものは複雑で、いくら理論や解釈の仕方を学んでも、まだ理解・説明しきれないものですし、学問自体も漠然としていて形の曖昧なものですから、それを言葉で伝えることの難しさを、就職活動など

を通じて感じています。

しかし、たいへんに面白い学問であることも確かです。演習などの授業の場で、教室にいる学生みんなが一体となって熱く議論を交わすことがしばしばあり、先生方や先輩方、同級生たちの知識・思考力の奥深さには感嘆させられますし、自身や友人のこころや関係性について、改めて考えるきっかけをいただけています。「自分と向き合う」ということは就職活動とも通じるところがあり、人生設計にも心理学が大きな影響を与えていていることを実感しています。

臨床心理士になる同級生などとは異なり、直接的に心理学を用いてのお仕事をすることはできません。しかし、教育学部で勉強させていただいたことをどんな形でも社会に還元できるように、あと一年卒業論文に向けて、必死に頑張りたいと思います。



相関教育システム論系  
4回生

## 三本仁美

昨年度、京都大学教育学部に社会人3年次編入致しました。毎日、知的刺激を受け、早一年が経過致しました。

編入生の入学式はアットホームな雰囲気で特別に設けて下さいました。それのみならず、編入生の先輩方が茶話会を開いて様々なアドバイスを下さり、数年ぶりの大学生活への不安を解消することができました。そして今年度も先輩

方の素晴らしい慣習を受け継いで、新編入生への茶話会が行われました。

教育学部に入学して感じたことは「個々を大切にする姿勢の素晴らしさ」です。未来の教育者を生み出すにおいて、「個としての自分」を大切にしていた貴重な思い出は消えず、それは他者へ、つまり生徒へと向かいます。素晴らしい研究や学問のみならず、人間としての「報恩感謝」のスピリットを教えて下さったのが京都大学教育学部だと感じています。

右も左もわからない私に「三本さんの場合はね…」と丁寧にアドバイス下さった教育社会学ゼミの稻垣恭子先生、岩井八郎先生をはじめ、院生・研究生の方々、教務掛の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。謙虚な気持ちを忘れず、卒論作成に向けて日々邁進したいと覚悟を新にしています。

## 臨床教育実践研究センターから

センター長 伊藤 良子

臨床教育実践研究センターは、開設10周年を迎えました。この10年間、当センターでは、市民のための心理教育相談室を中心にして実践と研究を深めるとともに、それらの知見を社会に還元するために、教師や臨床心理士などの専門家に対するリカレント教育講座や招聘外国人客員教授による公開講座等を開催して参りました。

リカレント教育講座では、子どもを巡って生じている社会の課題をいち早く取り上げて検討してきました。この間のテーマを年次順に挙げますと、いじめと不登校・非行・学級崩壊・多動・引きこもりと家族への援助・暴力と教師への支援・学力不振・親と子の関係・子どもの育ちと身体などです。しかしながら、われわれの願う方向に社会が進んで行くのはなかなか難しく、地道な臨床実践を継続していくことの重要性を強く感じております。

また、心理教育相談室の来談者延べ人数は、10年の平均で、年間5000人を超えております。それ以前の10年間では、4400人弱でした。近年は同様の相談機関が非常に多くなったことや、連携先等に出かけて相談を受けるようになってきたこともあって、当相談室への新規来談者数は増えています。年毎の変動はありますが、10年単位でみると概ね一定ですので、個々の事

例の総面接回数が増加していると言えます。このことは、相談内容の多様化・複雑化・深刻化に対応するべく、心理療法・心理相談が深まりと広がりをもってきたことによるものと考えております。しかし、今日の社会状況をみると、潜在的な需要はもっともっと多いことは否めない事実であります。できるだけ早い段階で相談に来られるように、来談の意義を広く伝えしていく努力をしたいと思っております。

さて、これらセンターの事業はすべて有料です。公開講座も受講料を事前に納入していただいている。有料であることは、参加する側にとって、経済的のみならず事務手続き上も相当負担になります。しかし、このことの意義は決して少なくありません。より主体的に参加していただけると同時に、主催者側の責任はさらに重くなります。毎回、厳しい外部評価を受けているといつてもよいでしょう。今後も皆様のご意見を頂戴しながら、新たな一歩を踏み出して行きたいと思っております。ご支援よろしくお願い申し上げます。



## 「お知らせ等諸々」



本研究科を取り巻く諸情勢、動きを簡単にトピックスでお知らせします。

- 各種大型の経費（グローバルCOE、現代GP、大学院GP等…）の申請等、競争的研究資金獲得に向けては精力的な取り組みがされており、当方からも支援体制の充実を図っていきたいと思っています。
- 評価に関しては、本年度に本学は大学評価・学位授与機構による認証評価を受けることとなっています。それに関連して、昨年度は10月に認証評価に係る観点カードを提出、同月「授業評価報告書」が、さらに2月には「自己点検・評価報告書」が発行されました。また本年は、外部評価を受ける予定であり、現在外部評価委員の先生方に資料をお送りし、評価の依頼がされているところです。
- 施設整備面では、吉田構内再配置計画に伴う、教育学部本館、工学部9号館及び4号館の研究科内の整備計画について、研究科内に新たに設置された施設整備委員会で検討されているところです。  
(以下は4月の事項です。)
- 平成19年度概算要求事項（特別教育研究経費・教育改革経費）が新たに採択されました。同経費で「教育実践コラボレーションセンタ

## 事務室から

専門職員（総務掛長） 新堂 利博

ンセンター」が研究科内に設置され、今後5年間の予定で教育・研究事業が推進されていくことになっています。

- ここでの未来研究センターの設置に伴い、その事務組織については本研究科が担当することとなり、事務職員定員の再配置を要求し配置されたところです。
- 学校教育法、大学設置基準の一部改正により、助教授が「准教授」に、助手が「助教」と変わりました。
- 事務組織の改正については、教育推進部、環境安全衛生部の設置、及び総務部、企画調査・評価部、人事部の再編等が実施されています。
- 事務組織規程の大綱化により、事務本部からの発令で掛長は専門職員に、掛主任は主任に一律に配置換になりました。すべて職名が専門職員、主任となりますので、研究科内の勤務命令により当該掛長、当該掛主任として発令しています。
- 簡易ポータルサイトの運用開始により、事務職員以外の先生方も研究者総覧データベースの利用、給与明細WEB閲覧ができるサービスが開始されました。今後順次サービスの追加が行われていく予定です。

等々いろいろお知らせをメインとした内容にしました。この1年本研究科がさらに躍進の年となるよう、下支えしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

# 図書室から

## 利用者アンケート集計概要

図書室では平成18年12月18日から平成19年2月16日まで利用者アンケートを実施しました。教育学研究科所属の27名(学部生18名、院生8名、その他1名)の方から回答をいただきました。以下はそのまとめです。

### (1) 利用頻度

1) 2-3/週	5
2) 1/週	9
3) 1/2週	4
4) 1/月	5
5) ほとんど利用しない	2
6) その他	2

論文を探したいとき、ゼミ発表前

### (2) 利用資料と満足度

1) 開架図書	①満足	16	②ふつう	6	③不満	0
2) 参考図書	①満足	8	②ふつう	10	③不満	0
3) 書庫内	①満足	15	②ふつう	0	③不満	0
4) 雑誌	①満足	17	②ふつう	1*	③不満	1*
5) 新聞	①満足	5	②ふつう	5	③不満	0
6) 視聴覚	①満足	1	②ふつう	4	③不満	0
7) 博士論文	①満足	4	②ふつう	4	③不満	1

\*コピー機を利用できないから

### (3) 図書室で充実すべき資料

1) 専門教育関連図書	9	2) 教養教育関連図書	3	3) 辞書	2	4) 視聴覚資料	0
5) CD,DVD	0	6) 新聞	0	7) 雑誌	11	8) オンラインジャーナル	7
9) その他 (具体的に: Social cognition, 人間性心理学、カウンセリング研究、新入生用心理学関係の一般書)							

### (4) 図書館サービス利用と満足度

1) レファレンスサービス	①満足	15	②ふつう	3	③不満	0
2) 他大学訪問利用	①満足	10	②ふつう	6	③不満	0
3) OPAC (オンライン目録)	①満足	21	②ふつう	4	③不満	0
4) 電子ジャーナル	①満足	10	②ふつう	8	③不満	0
5) データベース	①満足	13	②ふつう	9	③不満	0

### (5) 教育学研究科図書室の環境

① 満足	10
② ふつう	12
③ 不満	3

### (6) 貸出冊数・貸出期間

1) 現状でよい	26
2) 不満	0

### (7) 利用のための諸手続き(貸出手続き等)

1) 現状でよい	23
2) 要改善	2
3) 利用したことない	1
4) その他	0

### (8) 職員の対応

1) よい	26
2) ふつう	1
3) 悪い	0

### (9) 要望のまとめと今後の対応

要望事項	人数	対応
私費用コピー機設置希望	7	生協と交渉中
開室時間延長希望	4	週日19時までの開室を図書委員会で検討中
8月午後の開室希望	1	今年度より午後も開室予定
地下の雑誌の配置が分かりにくい	1	書架図を配布することとした。
インターネットで貸出し予約・更新等ができるようにしてほしい。	1	可能にする方向で検討中
開架が暗い	1	開架書庫か閲覧室か不明
閲覧室が寒い	2	今年の冬には対応可
自習スペースがもっとほしい。	1	研究科全体で検討予定
場所がもっと大きければよりよい。	1	研究科全体で検討予定

・以上は紙面の関係で省略・抜粋したものです。詳細は図書閲覧室に設置していますので、ご覧下さい。

・今後も利用者の皆様のご意見をお聞きして、できる限りサービス向上につとめたいと考えておりますので、お申し出下さい。

# ○教育実践コラボレーション・センターから

コラボレーション・センター関連助教 石井英真

この4月から教育実践コラボレーション・センターの助教をしています。教育実践コラボレーション・センターは、現場から持ち込まれた具体的な問題に対し、教育学研究科として異分野融合チームを組織し対応していくためのセンターです。現在、洛風中学校、高倉小学校、野殿・童仙房地区などを舞台に、現場の教師や地域住民と本研究科の教員や院生との間で、協働的な研究・実践が継続的に展開されています。これらの取り組みをそれぞれに充実させるとともに、人や知見の交流を通して各々の取り組みを他分野の研究・実践につないでいくことは、センター1年目の大きな課題です。私自身は、高倉小学校と教育方法研究室との共同研究に初年度から参加しており、今年で5年目になります。この共同研究では、院生が教師と協働して単元・授業をつくったり、日々の授業を観察したり、授業の振り返りや子どもの作品の分析を行ったりする活動を進めてきました。その際、院生側では、学校や教室の現状と課題を教師と共有しながら、実践改善の方策を探るという姿勢を大切にしてきました。研究のための研究ではなく、研究・実践の結果が子どもの利益につながり、そして、そのことで教師も院生も確かな手ごたえと明日への活力を得ら

れるような共同研究を目指し続けてきました。

このようなアプローチを取ることには大きな困難も伴います。実践的問題の複雑性と総合性に対して、共同研究の主題をどう焦点化していくか、教育方法学研究者として何を現場に返していくのか。院生はこれらの問いに絶えず悩みながら共同研究を進めています。私自身は、この点に関して異分野の研究者との対話は重要な意味を持つと考えています。このたび同じく本センターの助教となった安川さん（野殿・童仙房地区での実践研究を進めている）とは、お互いの実践研究の内容や研究関心などについて議論することも多く、それを通じて、知的刺激や実践改善のヒントをもらうのみならず、自分の研究領域の独自性を再認識させられています。教育実践コラボレーション・センターの助教として、教育現場と教育学研究科とのよりダイナミックなコラボレーションの可能性を探りながら、各分野の自律性と専門性を高めるような取り組みのお手伝いができたなら、などと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



## 留学生から

## 日本への思い



比較教育政策学講座  
博士後期課程1年

李 霞

叩きつけるような雨足が街路を覆うとき、咲き始めたばかりとはいえ、人の心を惹きつける可愛い紫陽花は、雨に立ち向かい、葉っぱの新緑や鮮やかな花びらで人の目を楽しませてくれる。日本の風物詩は、なんと言っても「梅雨空」にある。私が最初に、日本の関西空港に降り立ったのは、そうした梅雨特有の雲が低く垂れ込める、2001年初夏のある日であった。

日本に来ることが決まった時、頭にいろいろなことが浮かんできた。超高層ビル群の間にクモの巣のように走る綺麗に整備された道路、道に溢れる車、立派な富士山、満開になった桜…何よりも、今の日本人々は中国に対して、どのような考えを持ち、よそ者の私にどのように接してくれるのかという不安な気持ちで一杯であった。その答えを知るよしもない私にとって、「梅雨空」に漂う心情風景は実に明るくて優しさに満ちていた。

私の留学生活は、受け入れ先の学校の教員が関西空港まで迎えに来てくれたときから始まった。部屋の配置、掃除をはじめ、生活用品の購入、銀行通帳の作成など、こまごまとしたことまで、留学生係の先生や多くの寮生たちが私に温かい手をさしのべてくれた。そのときの皆さんの笑顔や優しい言葉は、いまでも私の

頭の中に浮かんでくる。

その後、日本の人々と接触するチャンスが増えるにしたがい、ここの人々の心が雨に洗練された紫陽花のように純粋であり、優しさに溢れていることが分かった。いつもお世話になっているため、少しでも恩返ししたいと思い、2年前からボランティア教師として、中国語を教えたり、小学校で国際理解の授業を行ったりしている。この間、「先生のお陰で中国語や中国を大好きになった」、「先生はいい人ですね、先生と会えてよかったです」、「昔は、中国留学生に対するイメージが良くなかったが、中にもいい人がいるね」など日ごろ接している方々から温かいお言葉を頂いた。そこで、心を開いて真摯に人を受け入れ、また、自分も受け入れてもらうことで、心と心が通じ合う最高の喜びを実感できるようになった。人々の笑顔と温かい情意にふれたとき、国と国との交流に一人ひとりが大きな力を持っていることを悟った。

「梅雨空」が開けた後に、雨露の洗礼を受けた紫陽花が満開の笑顔を見せてくれるように、これからの中もきっと明るい未来を迎えると信じている。そして、留学生の私たちにとって何よりも大切なことは、「遣日使」の立場にあることを意識し、日本の人々とのコミュニケーションを通じて、自分の誠意を見せることである。それこそ、日中外交の氷を溶かす大きな力となるので、これを目標にし、私のできることをしっかりとこなしていくつもりである。

# 総長賞を受賞して

米田英嗣

(自然科学研究機構生理学研究所 日本学術振興会特別研究員PD)  
(H19.3 博士後期課程修了 教育認知心理学講座)



まずははじめに、このたびは大変栄誉ある賞をいただきましてどうもありがとうございました。ご指導いただいた楠見孝先生をはじめ、教育認知心理学講座の先生方、大学院生、教育学部の学生の皆様にはとても感謝しております。これまでの研究活動と研究に託す夢などについて書きたいと思います。

私は、物語理解をしているときの感情の問題について研究しています。具体的には、1) 物語に登場する人物の感情、2) 物語を理解している読者の感情、3) 登場人物(主人公)と読者との相互作用から生じる感情といった3つの問題を検討して博士論文にまとめました。総長賞受賞の契機となった研究は1)の研究で、物語の主人公の感情変化を読者はいかに検出しているかを、自作の物語文章を題材として検討しました。その結果、感情変化があった文は変化がない文と比べて読解時間が長くなり、理解に負荷を要することがわかりました。この結果は、主人公の感情変化を、読者が持っている心的表象の中に統合する際にかかる負荷を反映していると考えられます。このことは、登場人物の感情の起伏があった小説を面白く感じるという日常的な現象の基盤をなしていると考えると、興味深いと思います。この研究は、Memory & Cognitionという雑誌に掲載されました (Komeda & Kusumi, 2006, 34, 1548-1556)。

現在は、愛知県岡崎市にある生理学研究所で、物語理解をしているときの感情の問題についてfMRI(機能的磁気共鳴画像法)を用いて、認知神経科学的手法を取り入れつつ研究しています。研究に託す夢としては、物語理解における共感の神経機序を解明し、小説の面白さの仕組みを解明することです。もし小説の面白さの仕組みを解明できたら、自分が書いた小説を公刊して全国の読者に実験参加者になってもらえるかもしれない、と夢のようなことを考えたりしながら、日々研究に励んでいます。

## ○ 諸記録

### ◆平成19年度入試結果

・教育学部

日程等		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
前期日程	文系	50	178	172	51	61
	理系	10	27	27	10	
第3年次編入学		10	30	29	10	9

・教育学研究科

課程等		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
修士	研究者養成コース	教育科学専攻	18	51(6)	51(6)	22(5)
	臨床教育学専攻	14	76(1)	73(1)	15	15
課程	教育科学専攻(専修コース)		10	31	31	11
	臨床教育学専攻(第2種)	若干名	4	4	1	1
博士後期課程編入学		若干名	12(1)	11(1)	2	2
臨床実践指導者養成コース		4	8	8	4	4

( )内の数は外国人留学生で内数

### ◆平成18年度学位授与件数

(H19.3.31現在)

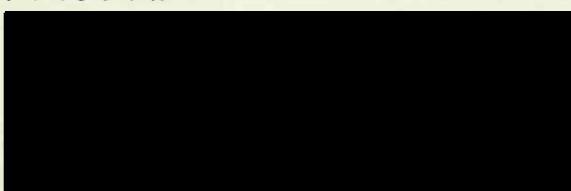
学位名等		授与者数
学士	教育科学科	78
修士	教育科学専攻	30
	臨床教育学専攻	9
博士	課程博士	6
	論文博士	9

### ◆教育職員免許状取得状況

平成18年度(2006)

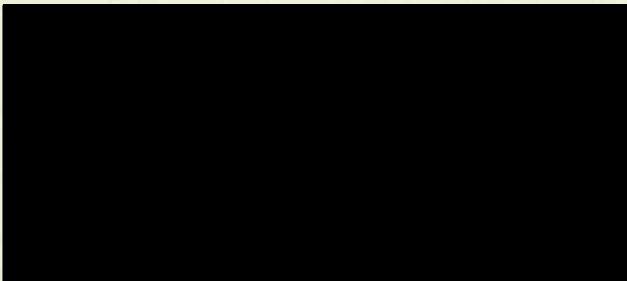
中学校専修免許状	0
中学校1種免許状	1
高等学校専修免許状	0
高等学校1種免許状	9
養護学校1種免許状	0
養護学校2種免許状	0

## ◆人事異動 (H18.10.2~H19.4.1)



平成19年3月31日付け

岡田 康伸 教授 (心理臨床学講座) 定年退職  
小野 文生 助手 (イニシアティブ関連) 辞職  
柴本 枝美 助手 (イニシアティブ関連) 辞職  
和田 竜太 助手 (COE助手) 任期満了退職



平成19年4月1日付け

吉川 左紀子 教授 こころの未来研究センター教授に配置換  
河合 俊雄 教授

平成19年4月1日付け  
川崎 良孝 教授 研究科長・学部長  
(任期 19.4.1~20.3.31) 再任

子安 増生 教授 教育研究評議会・評議員  
(任期 19.4.1~21.3.31)

副研究科長  
(任期 19.4.1~20.3.31)

矢野 智司 教授 教育研究評議会・評議員  
(任期 19.4.1~21.3.31)

副研究科長  
(任期 19.4.1~20.3.31)

伊藤 良子 教授 附属臨床教育実践研究センター長  
(任期 19.4.1~21.3.31)

田中 耕治 教授 現代教育基礎学系長  
(任期 19.4.1~20.3.31)

桑原 知子 教授 教育心理学系長  
(任期 19.4.1~20.3.31)

杉本 均 教授 相関教育システム論系長  
(任期 19.4.1~20.3.31)

桑原 知子 教授 (心理臨床学講座助教授から昇任)  
楠山 研 助教 (比較教育政策学講座)

採用

石井 英真 助教 (教育実践コラボレーションセンター関連)  
採用

安川 由貴子 助教 (教育実践コラボレーションセンター関連)  
採用

片畠 真由美 助教 (附属臨床教育実践研究センター)  
採用

## ◆招へい外国人研究者等の記録

### 外国人研究員 (京都大学客員教授)

○ 氏名 Shepherd Sherry Yvonne (シェパード・シェリー、イヴォン)  
現職 京都文教大学 大学院客員教授  
研究課題 東洋と西洋における箱庭療法の象徴的表現に関する研究  
所属講座 附属臨床教育実践研究センター 臨床心理実践学講座  
招へい期間 19.4.1~20.3.31

### 外国人共同研究者

○ 氏名 Ahn Hong-Seon (安 洪善)  
現職 ソウル大学校大学院教育学研究科博士課程学生  
活動内容 植民地期朝鮮における学歴社会の成立  
受入講座 教育学講座  
受入教員 駒込 武 准教授  
受入期間 19.2.1~19.2.21

### 招へい外国人学者

○ 氏名 Won Yong-Jin (元 容鎮)  
現職 西江大学校新聞放送学科・副教授  
活動内容 1945年8月15日のアジアのメディア  
受入講座 生涯教育学講座  
受入教員 佐藤 卓巳 准教授  
受入期間 18.12.20~20.2.2

## ◆寄附金受入

寄附金の名称	寄附目的	寄附者	研究担当者
楠見 孝准教授 に対する研究助成	楠見 孝准教授 に対する研究助成	財団法人 栢森情報科学振興財団	楠見 孝

## ◆受託研究受入

委託者	研究題目	研究担当者
情報・システム研究機構	JARE南極医学研究—昭和基地医療 データ解析とドーム高地医学解析	桑原知子

## ◆ 科学研究費補助金

19年度

研究種目	研究題目	研究担当者
基盤B一般	フィールドの語りをとらえる質的心理学の研究法と教育法	山田 洋子
〃	「専門的教養知」の働きとその教育・養成に関する文理総合型研究	藤原 勝紀
〃	知の伝達メディアの歴史研究—教育史認識のメディア論的転回に向けて—	辻本 雅史
〃	大学批判の歴史社会学—知識人的公共圏の成立と変容	稻垣 恭子
〃	「心の理論」の獲得と実行機能の伝達	子安 増生
〃	批判的思考の認知的基礎と教育実践	楠見 孝
〃	「伝承・習い事」文化における学習様式と生涯学習の現代的課題に関する比較研究	渡邊 洋子
〃	近代日本の植民地経験とアイデンティティ形成に関する比較教育文化史的研究	駒込 武
〃	義務教育の機能変容と弾力化に関する国際比較研究	杉本 均
〃	妊娠期から出産後における親の子ども表象の発達的变化と親子相互作用との連関	遠藤 利彦
〃	教育委員会制度を支える公会計制度の開発とその適用可能性の検証	高見 茂
〃	「わざ」の継承に働く「知」の構造を解明する—新たな学習術理の創成に向けて	鈴木 晶子
基盤C一般	贈与と交換の教育人間学的研究	矢野 智司
〃	ドイツにおける大学改革支援団体による高等教育政策の推進メカニズムに関する研究	金子 勉
〃	放送メディア教育の成立と展開	佐藤 卓巳
〃	ポスト・フォーディズム時代における教育機会とライフコースの変動に関する比較研究	岩井 八郎
〃	アクション・コントロールにおける言語性作動記憶の役割	齊藤 智
〃	リテラシーの育成をめざす評価規準と評価方法の開発	田中 耕治
萌 芽	大学と保育機関の連携による子どもの総合的発達支援体制の構築に向けて	遠藤 利彦
〃	医学教育従事者の専門職研修に関する成人教育学的実践研究—教育学専攻者を中心に—	渡邊 洋子
〃	女子中等学校の文化と教養に関する比較社会史的研究	稻垣 恭子
若手A	不妊治療経験者の選択と岐路、その支援：多様な親子関係を築く女性と子どもの語りから	安田 裕子
若手B	カリキュラム評価に生きるスタンダードの設定に関する国際比較調査	西岡加名恵

## ◆ ハラスメント防止に関する研修会

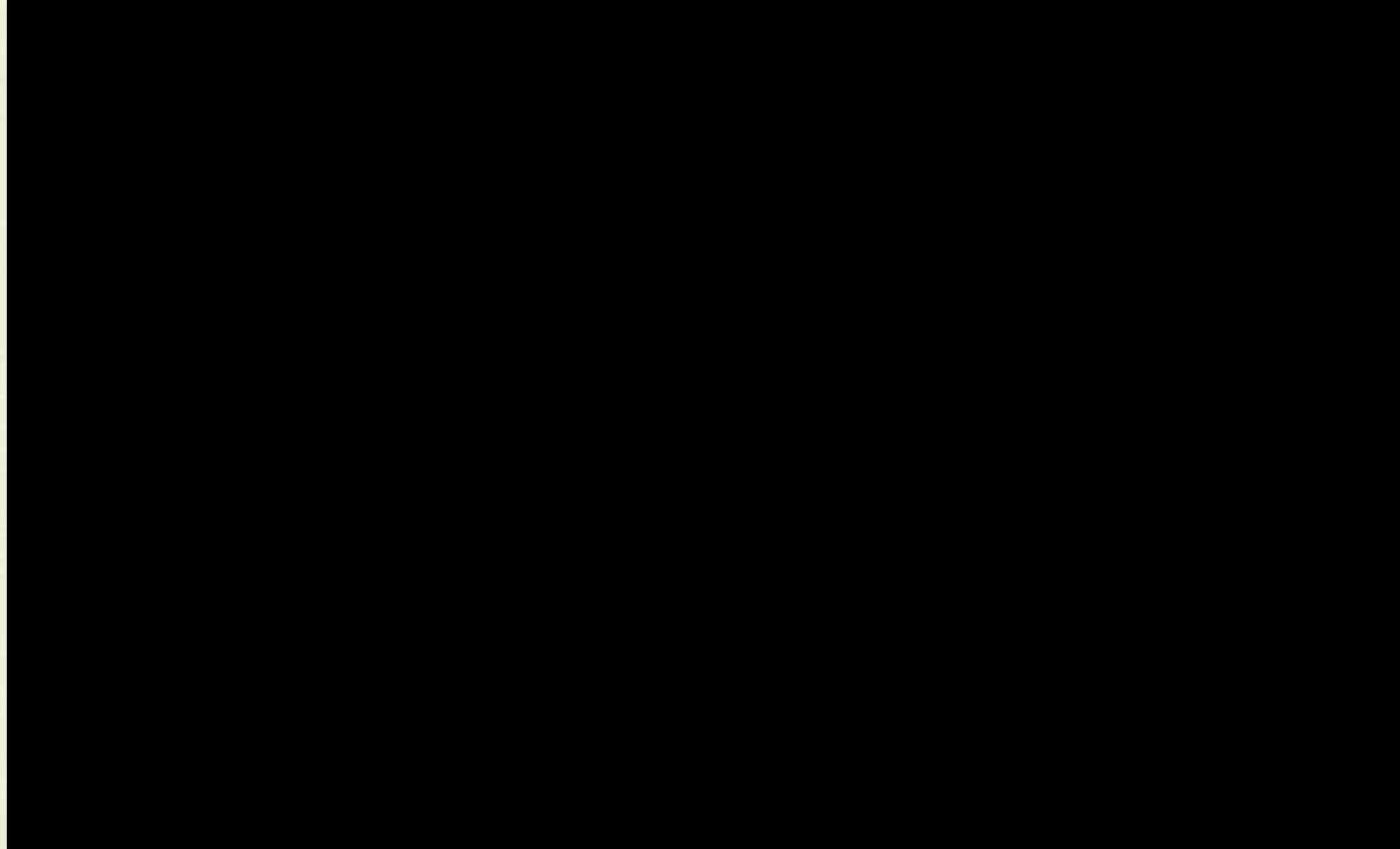


本研究科・学部では、教職員及び学生等の人権、特にハラスメントの認識をより深め、「ひと」としての人格や尊厳を高め、ハラスメントの防止を図ること、さらに就労上又は修学上の適正な環境を築くため、毎年、研修会を開催しています。

平成18年度は、11月30日（木）に開催し、カウンセリングセンターの中川純子講師による「アカデミック・ハラスメントを考える」と題する講演が第二講義室であり、教員、事務職員、学生の約30名程度の参加を得て、意識を高める機会となりました。

# 諸 報

## ◆新任教員・事務員紹介（「」内は本人の抱負）



## ～編集後記～

ニュースレター第14号をお届けします。研究科長の巻頭言にあるように「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、様々な成果を挙げながら昨年度で一通り完了し、院生と教員、そして教育学研究科全体にこれまでにはない大きな財産と自信とを残してくれたように思います。そして、今年度から「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究推進事業」など、またいくつか新たなプロジェクトが始まります。先生方や事務の方々の「忙しい、忙しい」という決まり文句は当分、消えそうにありませんが、そうした慌ただしさの中に身を置いていることは、絶えず新しいものと邂逅し、自分を奮い立たせていく上で、とても幸せなことなのかも知れません。

今号もとても素敵でパラエティ豊かなお言葉をたくさんの方々からいただきました。ご多忙の中、ご寄稿くださった皆さま、本当にありがとうございました。また、資料を提供してくださった事務の方々にも、心より感謝申し上げます。

今年はいつになく春の訪問が早かったように思います。この美しい花鳥の季節、日々の散歩がとても楽しくなりますね。麗らかに晴れた日には、なるべくなら、外に出て、自然の劇場を満喫したいものです。(T.E記)



## 京都大学教育学研究科 ・教育学部広報委員会

委員長 稲垣 恭子 教授(教育社会学講座)  
委員 川崎 良孝 教授(教育研究科長・教育学部長)  
委員 遠藤 利彦 准教授(教育方法学講座)  
委員 角野 善宏 准教授(附属臨床教育実践研究センター)  
委員 千代 進一 事務長  
委員 新堂 利博 専門職員(総務掛長)  
委員 前田 勝 専門職員(教務掛長)

### 事務担当

教育学研究科・教育学部総務掛  
TEL 075(753)3003